



かわら版

第 2 号
平成 26 年 7 月 31 日

- モデル事業が始まって 3 ヶ月が経ちました。7 月からは、府県毎の研修が順次行われていきます。府県毎に工夫を凝らした研修内容となっておりますので、当日の様子及び研修に向けてどのように準備をしたのかをご紹介します。

広島県研修会

全国のトップバッターとして 7 月 3 日（木）に開催された広島県研修会の模様をお知らせいたします。

■「平成 26 年度介護予防事業市町村等担当者会議」

去る 7 月 3 日 10 時より、広島県庁におきまして広島県の介護予防に関わる市町村等担当者を一堂に会し、担当者会議が行われました。県健康福祉局高齢者支援課長の開会挨拶があり、その後、4 月 25 日に開催された第 1 回都道府県介護予防担当者・アドバイザー合同会議、第 1 回アドバイザー合同会議および 5 月 30 日に開催された第 2 回アドバイザー合同会議内容の説明、平成 25 年度広島県統一評価項目の中間報告が行われました。



介護予防事業市町村等担当者会議の様子

続いて、広域アドバイザーの野瀬明子氏より「住民運営の通いの場の立上げ・充実の実践報告」として講演がありました。岡山県総社市の地域特性やいきいき百歳体操を導入した経緯、住民への働きかけの具体例、小地域ケア会議などの体制上の工夫エビデンスの見せ方、マンパワーの確保の仕方、評価方法について熱く語っていただきました。

講演後の質疑応答では、各市町村担当者より、介護予防サポーターの活動内容や育成・予算、また通いの場をつくる工夫等について質問がなされました。

最後に、県担当者より、前回のかかわら版をご紹介します。

■「平成 26 年度地域づくりによる介護予防推進支援モデル事業実施市町担当者会議」

13 時からは、当モデル事業実施市町担当者会議が行われました。広島県では、広島市、府中市、東広島市、熊野町および北広島町の 5 市町が当モデル事業に参加の手を挙げていただきました。

まず、県担当者より、地域づくりによる介護予防推進モデル事業について、アドバイザーによる支援イメージ・スケジュール、サイボウズの掲示板、ワークシートおよびかわら版について、説明いただきました。



モデル事業実施市町担当者会議の様子

次に、市町の担当者より、各市町の地域診断および事業概要について報告があり、その後、広域アドバイザー野瀬氏、広島県密着アドバイザー村上氏から全体アドバイスがありました。

各市町からは、地域住民から自主的に声上がるためにはどうすればよいか、通いの場の立ち上げや継続するための工夫、また、費用や評価方法はどうすればよいか等、共通した質問があがりました。アドバイザーか

ら、費用やスペースがなくても住民が自分たちで工夫することが大切であり、行政はそのヒントを住民に提供すること、協力者を地道に確保する等、行政の関わり方が課題となることをアドバイスいただきました。

また、閉会後も皆さま活発な意見を交わしておられました。

広島県を訪れた当日は、冷たい雨の降る日でしたが、当モデル事業に対する皆さまの熱い気持ちを目の当たりにして、暖かな気持ちで帰路に着きました。

傍聴をご快諾いただきました広島県ご担当者さまをはじめとする皆さま、ありがとうございました。

広島県でモデル事業を実施する5市町は、都市部あり山間部あり、高齢者人口も6,932～260,703人と大きく差があることから、様々な住民運営の通りの場のモデルができる予定です。

全国で初めて開催した会議では、各市町の担当者から、目指したい姿や実現のための課題等を直接聞くことができ、モデル事業への期待と取組の大変さを痛感しました。これから個別に戦略策定を行っていきますが、市町、アドバイザーの方々と一緒に、頑張っていこうと強く思えた会議になりました。

広島県担当者 由井 千絵

今月のサイボウズ ～県の研修会で何をするか@宮崎県～

今月のBest of Cybozuは、九州ブロックの掲示板で議論された「研修会で何をするか」についてです。（原文を一部省略・修正しています。）丁寧な担当者間の認識共有と準備により、モデル市だけでなく参加した市町村全てにとって有意義な会になったのではないのでしょうか。



Q：研修資料（①～③）を作成しました。ラフ案ですので、ご助言、ダメだしをお願いします。お送りするのは①研修スケジュール案、②グループワーク時に使うワークシート（※1）、③研修時行動計画になります。モデル市には「研修前」シートを事前に作成していただきます。（県担当者）

➤ **広域AD** 県担当者様、研修企画ありがとうございます。充実した介護予防の展開がしたいという汗が伝わってきました！国は介護予防実践を手段として活用し、住民運営の通りの場の充実を求めています。そのコンセプトは、

- ①容易に通える場（歩いていける場所）で住民主体が基本
- ②後期高齢者や要支援者、閉じこもりなど支援が必要な人の参加を促す
- ③住民の積極的参加と運営による自律的拡大
- ④要支援者や後期高齢者でもできる体操
- ⑤週1回以上の実施が原則

ですが、まず共通認識が必要なのはこのコンセプトであり、

- ・このコンセプトを出してきた国の意図は何か
- ・このコンセプトで、行政・地域・住民へのメリットは何か
- ・わが町でこのコンセプトに当てはまるような介護予防展開はできているか
- ・これから、このコンセプトに沿った事業展開を考える時、始めにすべきことは何か

などを考えることから始めるのもいいのかなと思いました。

厚労省の手引き案（※2）は、実際にモデル事業に取り組む市町村向けで、まだ何も考えていない市町村には、ハードルが高い気も・・・

また、来年度以降の展開を考えた時、モデル事業の内容を広く周知できていることは大切なファクターだと思いますので、包括の方にも来ていただければいかがでしょう。

➤ **県担当者** 了解しました。明確にコンセプトを共有できるように示した方がいいですね。お示した案では、グループワークでは、時間が限られているので、ワークシートに縛られる必要はないとは思っていたところです。コンセプトを意識しながら、事業説明と講義からエッセンスを抜き出さず作業を、グループですることによって学びが深められるように誘導し、グループ毎で検討できるところまで行っていただければよいかと。グループ差がどうしても出るので、最後の「助言・まとめ」で、コンセプトとポイントを押しさえるという感じで。ワークシートについては、全て検討して欲しいというよりも、具体的に今後戦略を考えるための手順として参考になるので、示しておいた方がいいかなというレベルでした。しかし、あまり盛りだくさん示しておくプレ

ッシャーになって、十分な話し合いができなくなるのも事実ですね。欲張りすぎました。

- **密着 AD** 時間 40 分、モデル市以外の参加者全員で、と考えるとやはりグループワークのテーマが大きいと思いました。お互いのやっていることを知り、講演で学んだことを活かしながら、一つでも介護予防を推進する次の PDCA につなげる学びを持ち帰る、ということを目的にすることでいいのではないかと考え、次のような案を考えてみましたがいかがでしょうか。
 - ・（グループワークの）最後にカード（付箋紙）にこれからの取り組みを一つ宣言して、シートにみなの宣言を寄せ集めて貼る
 - ・それをコピーして各自が持ち帰る
 - ・自分で書いたことと、みんなもこんなことをがんばるんだな、と折に触れながめながらモチベーションを維持していく。
- **広域 AD** グループ内の各市町村の状況を知り、課題を整理し、目標と目指す方向性が確認できる、シンプルで PDCA も意識できてとてもいいのではないかと感じました。県担当者様のお話の中で、国のコンセプトについて触れていただき、具体的実践事例と効果について私が、それをふまえて先生（密着 AD）に PDCA のロジックで考えられるよう示唆していただけることは、いい流れだと思います。やっぱり、こうやって意見交換しながら内容について深めていくって大切ですね。あとは、モデル市町村が具体的になぜ手を上げたのか、その実情と課題について、こちら側が理解を深めておくことが大切だと思います。
- **県担当者** 午後の部（モデル市対象）は、県保健所高齢者保健福祉担当も傍聴可能としようと思いますがよろしいですか？
- **広域 AD** 保健所の方も、もちろん聞いていただけたらいいと思います。一緒に課題や方向性を共有しましょう。

※1 地域診断・戦略策定の際に活用することを想定した、各府県共通のワークシートのことを言います。（厚生労働省より提供）

※2 「住民運営の通いの場の立ち上げ・充実手引き（案）」のことを言い、本モデル事業を通して作成中のものになります。

- このやりとりを経て、7月24日に宮崎県の研修会が行われました。研修会も含めてのアドバイザーからのコメントです。



アドバイザー's view

宮崎県密着アドバイザー小野です。宮崎県の研修会が100名を越える参加者を得て、無事終わりました。

私は、安本先生（広域AD）の話を受けて、40分のグループワークのコーディネートを担当する役割を担いました。グループワークは、我が町で行っている介護予防活動を「効果が上がっているか」「住民主体になっているか」「地域づくりにつながっているか」の視点から評価したうえで、講演を踏まえ、自分の地域でどんな事ができそうか私の戦略を一つたてるという内容でした。

広域アドバイザーのマジックにかかった参加者同士、活発な話し合いがなされました。「今までやってください、来てください、と言い過ぎていた」などの支援者側の課題や「運動習慣が定着しない」「世間体や遠慮の心もある」と住民側の要因なども語られました。そして、介護予防を推進するために「教室参加を積極的に呼びかけることをやめ、地区リーダーにアプローチする」「住民が自身でやろう！と思える資料をつくって15地区公民館をまわる」「今年度立ち上げる一次予防事業に津山方式を取り入れて自主活動につなげて見せる！」など、まさに熱気にあふれる私の戦略がたてられました。モデル地区以外の市町村も介護予防の推進に向けて動き出す予感がしたグループワークとなりました。

私は、密着アドバイザーの役割を拝命した時から、広域アドバイザーの先生方のように介護予防のノウハウを十分持ち合わせていない中で、どのような役割を果たせばいいのかと疑問に思ってきました。しかし、この研修会に関わることで、密着アドバイザーとしての役割を少し見いだせたような気がしています。私の強みは①この土地に生まれ育ち、保健師として活動した経験の中から地域特性、住民性を把握していること②看護大学の教員であるので、卒業生が保健師として介護予防担当部署で活動していること③学生実習や保健師の現任教育を通して市町村の介護予防活動を理解できていることです。その強みを活かし、広域アドバイザーの先生のお話を「宮崎で展開するとしたら、どうすれば実現可能か？」と住民や担当者の目線で共に考え、担当者がやろうと決めたことを「それはいいこと！」と後押しし、考えたこと、やったことを客観視できるようにまとめていくことをサポートする、という役割を果たせばいいのではないかと考えるようになりました。これからは、密着アドバイザーとして、気負わずに、地域に応じた、立場に応じた支援を行っていきたいと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

宮崎県密着アドバイザー／宮崎県立看護大学 小野美奈子

各府県の研修会開催状況

○ 7月には以下の県で研修会が開催されました。

3日：広島県，9日：秋田県，14日：福井県，22日：石川県，24日：山形県，山口県，宮城県，25日：兵庫県，28日：島根県，30日：青森県，千葉県

なお、台風の影響により、高知県，熊本県は予定されていた日程が変更となりました。

サイボウズのアクセス状況

○ いずれの地域でも掲示板を中心に活発な議論が展開されている様子です。事務局からも事務手続きなどの連絡を随時更新致しますので、引き続きチェックいただければ幸いです。

<今月のアクセス数>

注) 6月20日正午から7月20日正午までの集計です

東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州	全体
1,032	432	290	584	594	444	3,376

8月の各地の予定

➤ 研修会

- 【岩手県】:8月1日
- 【高知県】:8月4日
- 【熊本県】:8月5日
- 【群馬県】:8月8日
- 【埼玉県】:8月13日
- 【福島県】:8月19日
- 【栃木県】:8月21日
- 【宮城県】:8月25日
- 【富山県】:8月27日

事務局からのお知らせ

- 第3回アドバイザー合同会議のお知らせ
(10月10日(金)開催予定)
- 第2回都道府県介護予防担当者・アドバイザー合同会議
(2015年3月開催予定)

誠に勝手ながら、事務局（株式会社三菱総合研究所）は8月7日（木）から17（日）まで全社一斉夏季休業とさせていただきます。ご用の方は、メールにてご連絡くださいますようお願いいたします。

○ 次回は、市町村の取組の様子をご紹介します。

【編集後記】

いよいよ研修会が始まりました！事務局メンバーもいくつかの研修会を傍聴させていただいていますが、この夏の「暑さ」に負けない関係者の皆様の「熱さ」に圧倒され、元気をいただいております。この場をお借りして「厚く」御礼申し上げます。皆様、熱中症にはくれぐれもお気をつけ下さい。

地域づくりによる介護予防推進支援モデル事業事務局（株式会社三菱総合研究所）

担当：江沼、川邊、八巻

TEL：03-6705-6131（平日9：30～12：00，13：00～17：30）

E-mail：yobou2014@mri.co.jp